

5月1日

は労働運動にとって特別な意味を持っている。かつてはソ連をはじめどこにおいてもスターリン主義官僚制度に乗っ取られていたが、労働運動の祭典であるメーデーは世界連帯の日なのである。過去の闘争を思い起こし、より良き未来への希望を示威する時である。一人の被害は全員の被害だということを思い起こす日なのである。

メーデーの歴史は、アナキズム運動・より良き世界を求めた労働者人民の闘争と密接に結び付いている。実際、シカゴのアナキスト四名が、一日八時間労働を求めた戦いで労働者を組織したために、1886年に処刑されたことが起源なのである。つまり、メーデーは「アナーキーの実践」の産物なのだ。世界を変革すべく労働組合に参加して直接行動を行っている労働者の闘争の成果なのである。

メーデーは1880年代に米国で始まった。1884年、米加労働組合連盟(1881年に設立され、1886年にアメリカ労働総同盟に改称した)は決議案を採択し、次のように主張した。『1886年5月1日以降、一日の法定労働時間は八時間とすべきである。この決議に準拠してそれぞれの規則を方向付けるよう、この地区全域の労働者組織に要請する。』この要請を支持して、1886年5月1日のストライキが呼びかけられたのである。

シカゴではアナキストが組合運動の主力であった。労組がこの呼びかけを5月1日にストライキを行うことだと解釈した理由の一部には、アナキストの存在があった。八時間労働を勝ち取るためには直接行動と連帯を行うしかない、とアナキストは考えた。彼等にとって、八時間労働のような改良を求めた闘争それ自体だけでは不充分だった。彼等は、そうした闘争を、社会革命と自由社会の創造によってのみ終結する継続的な階級戦争におけるたった一つの戦いに過ぎないと見なした。こうした理念の下に彼等は組織を作り、戦っていたのである。

- ★ August Spies
- ★ Albert Parsons
- ★ Adolph Fischer
- ★ George Engel
- ★ Louis Lingg
- ★ Michael Schwab
- ★ Samuel Fielden
- ★ Oscar Neebe

ハイマーケット の犠牲者

シカゴだけでも40万人の労働者がストライキを行った。スト実行の脅威のおかげで、4万5千人以上がストをせずに労働時間短縮を認められた。1886年5月3日、マコーミック＝ハーベスター機械会社にピケを張っていた群衆に警察が発砲し、少なくとも一人を死亡させ、五、六名の重傷者、その他多数の負傷者を出した。翌日アナキストは、この蛮行に抗議するためハイマーケット広場での大衆集会を呼びかけた。市長によれば、『まだ何も起こって

いなかったし、干渉しなければならぬことが起こりそうだとも思えなかった。』だが、180名の警官が到着し、集会の解散を命じた。その瞬間、群集に向かって発砲を始めた警官隊に爆弾が投げつけられたのである。警察によってどれだけの市民が殺され、負傷させられたかは、一切明らかにされなかった。

恐怖時代がシカゴに押し寄せた。集会場・組合事務所・印刷所・個人の自宅までも警察が踏み込んできた(大抵は何の令状もなしに)。労働者階級への襲撃により、著名なアナキストや社会主義者は一斉検挙され、容疑者の多くは暴行を受け、買収された者もいた。令状無しの捜査について問い質された際に、州法務官 J= グリンネルが発表した公式声明は『まず家宅捜索をし、その後法律を調べる』だった ["Editor's Introduction", The Autobiographies of the Haymarket Martyrs, p. 7]

八人のアナキストが殺人の従犯者として裁判にかけられた。被告人の誰々が爆弾を投げたとか、それを計画したといった主張は全く行われず、その代わり、陪審員は次のように告げられた。『法律が審理されています。アナキーが裁判を受けているのです。ここにいる被告人たちが選ばれ、大陪審によって拔擢され、起訴されたのは、彼等が指導者だからです。彼等に従った数千人に罪がないのと同じように彼等にも罪はありません。陪審員紳士の皆さん、彼等に有罪を宣告し、見せしめにし、絞首刑にしなければならぬのです。そうすれば、私たちの制度・私たちの社会は救われるのです。』[前掲書, p. 8] 陪審員は特別廷吏が選び、州法務官が任命した。一人は死亡した警官の親戚、他は実業家であった。特別廷吏が『この事件は私が仕切っているし、自分が何をしようとしているかもわかっている。こいつらは間違いなく絞首刑になるだろう。』(前掲書)と公言していた証拠を弁護人が提出することは認められなかった。当然、被告人たちは有罪を宣告された。七人が死刑、一人が禁固15年であった。

国際的抗議運動によって、死刑判決を受けた七人のうち二人は終身刑に減刑された。しかし全世界的抗議も米国家を止めることはできなかった。五人のうち一人(ルイス=リング)は執行人を騙して死刑執行前日に自殺した。残りの四人(アルバート=パーソンズ・アウグスト=スパイス・ジョージ=エンゲル・アドルフ=フィッシャー)は1887年11月11日に絞首刑にされた。労働運動史で彼等はハイマーケットの犠牲者として名を残している。葬列の通り道には一万五千人から五万人が列をなし、推定一万人から二万五千人が埋葬を見守った。

1889年、パリの国際社会主義者会議に参加した米国の代表団は、5月1日を労働者の祭日とすることを提案した。これは労働者階級の闘争を記念し、『シカゴの殉教者八名』を追悼するためである。以来、メーデーは国際連帯の日となった。1893年、新しいイリノイ州知事は、シカゴと全世界の労働者階級が承知していたことを公式に認め、犠牲者たちは明らかに無実であり、『裁判は不公正だっ

た』として恩赦を与えた。

裁判当時、当局はこのような弾圧によって労働運動の背骨をへし折ることができるだろうと信じていた。しかし、それは間違っていた。犠牲者の一人アウグスト=スパイスは、死刑判決を受けた後、法定で次のように陳述した。

虐げられた数百万の人々が、悲惨と貧窮の中で労苦している数百万の人々が救済を求めている運動、労働運動を、私たちを絞首刑にして踏みこむことができると思うなら、それが君たちの見解だというのなら、死刑にするがいい!ここで君たちは火花を踏みつぶしている。だが、あちこちで、君たちの背後で、君たちの眼前で、いたるところで、炎は燃え上がる。これは地下の火だ。君たちに消すことなどできはしない。[前掲書, pp. 8-9]

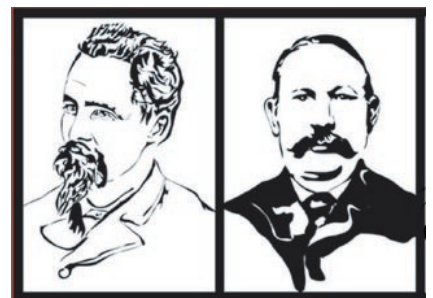
当時、そしてその後の数年間にわたり、特に米国において、国家と資本主義に対するこうした叛逆が、何千人もの人々をアナキズムに引き入れた。ハイマーケット事件以来、アナキストはメーデーを(つまり5月1日をー改良主義労組や労働系政党はメーデーの行進を5月の第一日曜日に変更したが)祝っている。私たちがメーデーを祝うのは、全世界の労働者階級との連帯を示すため、過去と現在の闘争を祝うため、自分たちの力を示すため、支配階級にその脆弱さを思い起こさせるためである。ネストル=マフノは次のように述べている。

その日、米国の労働者は、自分たちで組織を作り、有産階級の国家と資本が持つ不正な秩序に対する抗議を表現しようとした。

シカゴの労働者は、自分たちの生活と闘争に関わる諸問題を共同で解決しようと結集した。

今日でも労働者は5月1日を、自分たちの事柄に関心を持ち、自分たちの解放という問題を考えるために、集まる機会だと見なしている。[The Struggle Against the State and Other Essays, pp. 59-60]

アナキストはメーデーの真の起源に忠実であり、虐げられた者の直接行動によってその起源を祝う。抑圧と搾取は抵抗を産む。アナキストにとってメーデーはこの抵抗と力を国際的に象徴しているのである。この力は、アウグスト



= スパイスの最後の言葉に示され、シカゴのワルトハイム墓地にあるヘイマーケット犠牲者の碑にも刻みこまれている。

今日お前たちが絞め殺している声以上に、我々の沈黙が強くなる日が来るのだ。

国家や実業家階級がシカゴのアナキストの絞首に拘った理由を解するためには、彼等が大規模で急進的な組合運動の「指導者」だと見なされていたことを実感しなければならぬ。1884年、シカゴのアナキストたちは世界最初のアナキスト日刊新聞「Chicagoer Arbeiter-Zeitung」を発刊した。この新聞を書き・読み・所有し・発行したのは、ドイツ移民の労働者階級運動だった。この日刊紙・週刊紙（「Vorbote」）・日曜版（「Fackel」）の合計発行部数は、1880年の13,000部から1886年の26,980部へと倍以上に増加していた。同様に、他の民族向けのアナキスト週刊紙も存在していた（英語・ボヘミア語・スカンジナビア語）

アナキストたちは、中央労働組合（シカゴ市にある11の主要労組が含まれていた）の結成についても非常に活動的であった。アルバート＝パーソンズ（犠牲者の一人）の言葉によれば、それを『未来の「自由社会」の胚芽集団』にしようとしていた。アナキストたちは、国際労働者協会（IWPA 黒色インターナショナルとも呼ばれていた）の構成員でもあった。その創立大会には26都市から代表者が参加していたが、すぐにIWPAは『特に中西部において、労働組合に浸透し始めた。』そして『一般組合員による直接行動』という考えと『資本主義の完全破壊を達成するための労働者の手段としての役目を果たし、新社会を形成するための核として機能する』労働組合という考えは、シカゴ理念として知られるようになっていた（この理念が後の1905年にシカゴで創立された世界産業労働者（IWW）を刺激したのである。）[“Editor’s Introduction,” The Autobiographies of the Haymarket Martyrs, p. 4].

この思想は、1883年のIWPAピッツバーグ会議で提起された宣言で次のように表現されている。

第一：あらゆる手段――精力的で容赦ない革命的国際行動

――を用いて既存階級支配を破壊する

第二：協同生産組織に基づいて自由社会を構築する

第三：商売や金儲けを排し、等価産物を生産組織が生産組織間で自由に交換する

第四：両性に対する非宗教的で科学的で平等な基盤に基づいた教育を体系化する

第五：性別や人種による差別なく、万人に対して平等な権利を提供する

第六：全ての公務は、連合的基盤に基づき、自律（独立）コミュニケーションと協同組織間の自由契約によって規定される [前掲書 p. 42]

組合の組織化に加え、シカゴのアナキズム運動は様々な社交クラブ・ピクニック・講座・ダンス・文庫といった多くの活動も組織していた。こうした活動に助けられて、『アメリカン・ドリーム』の中心にハッキリと労働者階級の革命文化が形成された。支配階級とそのシステムへの脅威が余りにも大きかったため、この運動の継続を許すことができなかったのである（特に、1877年の大規模な労働者蜂起の記憶が新しくあったこともある。1886年同様、この叛乱は国家暴力に直面した――このストライキ運動とヘイマーケット事件の詳細は、J＝プレッシャー著「ストライキ！ Strike!」を参照）。その結果が、国家と資本家階級が運動の「指導者」だと見なした人々の弾圧・でっちあげ裁判・国家殺人だった。

ヘイマーケット事件の犠牲者と、彼等の人生と思想をさらに知るには、「ヘイマーケット犠牲者の自叙伝 The Autobiographies of Haymarket Martyrs」が基本文献である。唯一の米国生まれの犠牲者、アルバート＝パーソンズは、自分たちが何を支持しているのかを解説した本「アナキズム：その哲学と科学的基礎 Anarchism: Its Philosophy and Scientific Basis」を書いている。歴史家ポール＝アヴリッチ著「ヘイマーケットの悲劇 The Haymarket Tragedy」はこの事件を綿密に解説しており、有用である。



达亨重力而士

